

「とく」と「とける」の多義構造

——日本語教育の観点から——

李 澤 熊

1. はじめに

動詞「とく」と「とける」¹⁾は基本動詞として扱われ、日本語教育において重要な学習項目の1つとなっている。しかし、「とく」と「とける」は多様な意味を担っている多義語²⁾であるため、その学習指導方法というのは必ずしも容易ではない。

さて、現在刊行されている辞典・辞書類を調べてみると、「とく」と「とける」は多義語として扱われているが、それらの意味を選んで掲げる基準は必ずしも明らかではない。また、当然のことながらそれぞれの意味の相互関係も不明確である。

そこで、本稿ではまず「とく」と「とける」が持つそれぞれの複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにする。また、この2語は自・他対応動詞であることから、別義間の対応関係についても検討する。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。

なお、「とく」と「とける」の複数の意味の関連性については、隠喩（メタファー）と換喩（メトニミー）という2つの比喩の観点から考察する³⁾。それぞれの定義は靱山・深田（2003: 76-87）、靱山（2010）に従い、以下のように示す。

メタファー：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。「類似性に基づく」というのは、2つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えたほうが適切である。

例) 外見の類似性に基づくメタファー：「トンボ」という語には、〈グラウンド整備の道具（の一種）〉という意味もあるが、この意味は、この道具が、昆虫の「トンボ」（「トンボ」の本来の意味）の形に似ていることに基づくものである。つまり、外見の類似性に基づくメタファーと考えられるものである。

抽象的な類似性に基づくメタファー：「故障」とは本来〈機械などが正常に機能しなくなること〉であるが、「肩の故障で、今シーズンを棒に振ってしまった」というように、「人間」に関して使われる場合もある。この場合の「故障」は〈スポーツ選手などの体（の一部）が正常に機能しなくなること〉である。この新しい意味は、〈正常な機能が果たせなくなること〉という本来の意味との共通点（つまり、抽象的な類似性）に基づくメタファーと考えられるものである。

メトニミー：2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩⁴⁾。

例) 空間における隣接：「黒板を消す」という場合、〈黒板〉と〈黒板に書かれた文字〉が隣接していることに基づいて、本来〈黒板〉を表す「黒板」という形式を、〈黒板〉と隣接している〈黒板に書かれた文字〉を表すのに用いる。

手段と目的の関係：「今回だけは目をつぶってやろう」における「目をつぶる」は、おおよそ〈見なかったことにする／黙認する〉という意味である。ここで「目をつぶる」の字義通りの行為の意味と〈見なかったことにする〉という意味の関係を考えて、我々は「目をつぶる」ことによって、ある対象を見ないようにすることができることから、字義通りの意味が手段を表し、〈見なかったことにする〉という意味は目的を表していることになる。

2. 「とく」と「とける」の意味分析

2.1. 「とく」

本節では、「とく」について8つの多義的別義を認め、考察を行う。

2.1.1. 多義的別義(1) (基本義)：〈人が〉〈結んであるもの・縛ってあるもの・もつれているものを〉〈ゆるめて〉〈もとの離れた状態にする〉(「とける」別義(1)に対応)

- (1) 片手で運動靴の紐を {解く}。
- (2) 絡まった糸を一本一本丁寧に {解いて} いく。
- (3) 子供のとき、祖母にはよく髪を {解いて} もらった。
- (4) プレゼント箱のリボンを {解く} 瞬間は、いくつになっても嬉しいものです。
- (5) 商品が入荷しましたら、すぐに梱包を {解いて} 中身の状態をチェックしてください。

別義(1)は、結んであるものや縛ってあるもの、もつれているもの、つまり糸や縄など、ひも状のものをゆるめて、もとの離れた状態にするということを表す。梱包や荷物などは紐や糸などで結んであることから「梱包・荷物・小包をとく」という言い方もできる。また、乱れた髪を整えるという意味で、「(くしで)髪をとく」という使い方もある。なお、この別義(1)は、現代日本語においてはほぼ同じ意味を表す「ほどく(解く)」がよく用いられる。

2.1.2. 多義的別義(2)：〈人が〉〈身につけていたものを〉〈取りはずして〉〈平常の服装にする〉

- (6) チェックインが済んだら、とりあえず旅装を【解いて】一服しましょう。
- (7) 「解甲帰田(かいこうぎでん)」とは、武装を【解いて】故郷に帰るという意味である。
- (8) この主人公の女性は家族を守るため、最後まで男装を【解く】ことはなかった。
- (9) ベースキャンプに戻り、装備を【解いて】下山の準備をする。

別義(1)は、「結んであるものや縛ってあるものをゆるめて、もとの離れた状態にする」ということを表しているが、この「とく」はさらに進んで、結んであるものや縛ってあるものをゆるめて分け離すことによって、「問題となる服装を、身体から取り外す」ということを表している。つまり、別義(1)とは手段と目的の関係にあると考えられる。このことから、別義(2)は別義(1)から換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.3. 多義的別義(3)：〈人が〉〈心の中にわだかまる不快な心情を〉〈やわらげ〉〈平穏な状態にする〉(「とける」別義(2)に対応)

- (10) ゆっくり深呼吸をして緊張を【解く】。
- (11) スポーツは、民族間の誤解や憎しみを【解く】きっかけになることもある。
- (12) 政府は、食品の安全性問題に対する消費者の不信を【解く】べく、食品関連法の改正を行った。
- (13) 心に傷を負った捨て犬の警戒心を【解く】には、信頼関係の構築が何よりも大事です。

別義(1)は、「結んであるものや、もつれているもの(つまり、具体物)をゆるめて、もとの離れた状態にする」ということを表すが、この「とく」は「怒りや緊張、不安など(つまり、抽象物)をやわらげて、もとの平穏な状態にする」ということを表す。ただし、いずれも「(複雑に)絡まっているある対象物をもとの状態にする」という点では共通している。つまり、別義(3)は、別義(1)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.4. 多義的別義(4)：〈人が〉〈不明・未知のことに対して〉〈答えを出す〉(「とける」別義(3)に対応)

- (14) 制限時間内にこの問題を {解かなければならない}。
- (15) その女性は、事件の謎を {解く} カギを握っている。
- (16) 先日、NHKで「相対性理論の矛盾を {解く}」というスペシャル番組が放送された。
- (17) あの魔女の呪いを {解く} には、真実の愛しか方法はありません。

別義(1)は、「結んであるものや、もつれているもの(具体物)をゆるめて、もとの離れた状態にする」ということを表すが、この「とく」は「ある対象物(抽象物)が抱えている問題や謎、魔法などについて、(本来の姿とも言うべき)答え・真相を明らかにする」ということを表す。ただし、いずれも「(複雑に)絡まっているある対象物をもとの状態にする」という点では共通している。つまり、別義(4)は、別義(1)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.5. 多義的別義(5)：〈人が〉〈物事の道理や筋道を〉〈相手に分かるように〉〈言って聞かせる〉

- (18) 今日の授業では、聖徳太子が {説いた} 和の精神について考えます。
- (19) 毛利博士は著書の中で、地球の環境問題を独自の視点から {説いて} いる。
- (20) 先日の学会では「人生の生き方を {説く}」というタイトルで講演を行いました。
- (21) 財務大臣は新年の所信表明で、消費税増税の必要性を {説いた}。

別義(4)は、「人が不明・未知のことに対して、答えを出す」ということを表しているが、この「とく」は不明・未知である事柄について、答え・真相を明らかにすることによって、さらに進んで「その答え・真相(つまり、道理や筋道)を相手に分かるように言って聞かせる」ということを表している。つまり、「相手に分かるように言って聞かせる」ための前提として「答えを出す」というようにとらえられ、別義(4)と別義(5)は、手段と目的の関係にあると考えられる。このことから、別義(5)は別義(4)から換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、漢字表記であるが、別義(5)で用いられる場合は、一般的に「説」を使う。

2.1.6. 多義的別義 (6) : <人 [組織] が <他の人 [組織] に対して <制約・制限しているものを <取りのぞき <もとの通常の状態にする <「とける」別義 (4) に対応

- (22) 警察が山田氏の拘束を {解いた} のは事件発生から2週間後のことである。
 (23) 母に、3キロやせたら夜食禁止を {解いて} やると言われた。
 (24) 球団は3月20日付けで、高木選手の謹慎を {解いた}。
 (25) 政府は、太平洋諸国からの難民に対して、最後まで入国規制を {解く} ことはなかった。
 (26) 鎖国を {解いた} 直後の日本の様子が分かる書物が発見された。

「とく」は、別義 (1) のように本来「紐や糸などの結んであるものや、もつれているもの、つまり具体物」に対して、「それをゆるめて、もとの離れた状態にする」ということを表すが、別義 (6) は「ある事柄 (抽象物)」に対して、「制約や制限を緩和して取り除き、もとの通常の状態にする」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物の制限をゆるめて (緩和して)、もとの状態にする」という点では共通している。つまり、別義 (1) と別義 (6) は抽象的な類似性に基づいて意味が成り立っていると考えられる。このことから、別義 (6) は、別義 (1) から隠喩 (メタファー) によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.7. 多義的別義 (7) : <人 [組織] が <他の人に対して <ある任務・職務から <離れさせる <「とける」別義 (5) に対応

- (27) 国会は懲罰手続に従い、山田氏の長官の職務を {解いた}。
 (28) 県は、相次ぐ教職員の不祥事を受けて、高橋教育長の任を {解いた}。
 (29) 理事会は鈴木氏に対して、教頭の役職を {解いて} 教諭に降格させることを決めた。
 (30) この日、クラブの公式サイトで「理事会は杉本監督の任を {解いた}」と発表した。

別義 (6) は、「ある人 (組織) に対してかけられていた制約や制限を取り除き、もとの通常の状態にする」ということを表しているが、この「とく」は「ある人に対して、ある任務・職務から離れさせる」ということを表している。ただし、いずれも「ある人に対して、(その人を取り巻く) 何らかの状況を取りのぞき、もとの状態にする」という点では共通している。つまり、別義 (7) は、別義 (6) から隠喩 (メタファー) によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

さらに、この「とく」は、「単に何らかの状況を取りのぞき、もとの状態にする」ということだけではなく、「(取り巻く状況を取りのぞくことによって) 当該の人を (役職などから) 辞めさせるということまで表しており、別義 (6) とは手段と目的の関係にもあると考えられる。

このことから、別義(7)は別義(6)から換喩(メトニミー)によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.8. 多義的別義(8)：〈人が〉〈(主に)固形・粉末状の物質に〉〈液体を加えて〉〈均質な液状にする〉(「とける」別義(6)に対応)

- (31) ミルクに菓を {溶いて} 飲ませることでミルク嫌いになる乳児がいるらしい。
 (32) 水で {溶いた} 小麦粉に様々な具材を入れて焼いた料理のことをお好み焼きと言う。
 (33) 油絵とは、油で顔料を {溶いて} 描く絵画のことである。
 (34) 牛乳に卵と砂糖を {溶いて}、それをトーストに塗ってフライパンで焼き上げる。

「とく」は、別義(1)のように本来「紐や糸などの結んであるものや、もつれているものに対して、それをゆるめて、もとの離れた状態にする」ということを表すが、別義(8)は「固形・粉末状の物質」に対して、「それに液体を加えて、(物質の組織を分解することによって)均質な液状にする」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物の結集された状態をゆるめて、(本来の姿とも言うべき)もとの離れた状態にする」という点では共通している。このことから、別義(8)は、別義(1)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、漢字表記であるが、別義(8)で用いられる場合は、一般的に「溶」を使う。

以上、本節では「とく」について、8つの多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「とく」は以下のような多義構造を成していると考えられる。

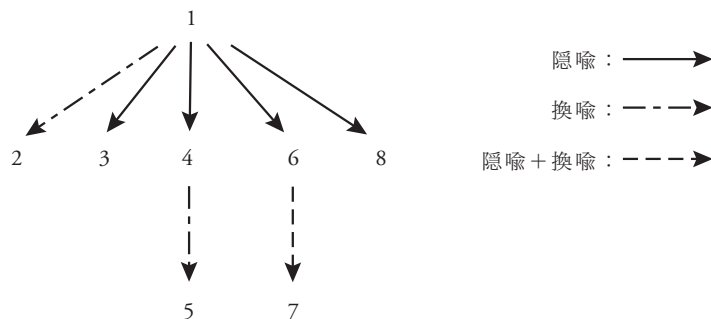


図1 「とく」の多義構造

2.2. 「とける」

本節では、「とける」について7つの多義的別義を認め、考察を行う。

2.2.1. 多義的別義 (1) (基本義) : 〈結ばれていたもの・縛られていたもの・もつれていたものが〉〈ゆるんで〉〈もとの離れた状態になる〉(「とく」別義 (1) に対応)

- (35) 娘の髪飾りのリボンが {解けて} いたので、結びなおしてあげた。
 (36) 帯が {解けない} ようにしっかり結んでください。
 (37) 水を吸った縄はきつく縮まり、結び目が {解けなく} なる。
 (38) 新しく靴を買ったけど、ちょっと歩くだけですぐ紐が {解けて} しまう。
 (39) 風の衝撃でロープが {解けない} ように、しっかりと固定します。

別義 (1) は、「結んであるものや縛ってあるもの、もつれているもの、つまり糸や縄など、ひも状のものがゆるんで、もとの離れた状態になる」ということを表す。なお、現代日本語においては、この別義 (1) とほぼ同じ意味を表す「ほどける (解ける)」がよく用いられる。

2.2.2. 多義的別義 (2) : 〈心の中にわだかまる〉〈不快な心情が〉〈やわらぎ〉〈平穏な状態になる〉(「とく」別義 (3) に対応)

- (40) 先輩のアドバイスで、一つ悩みが {解けました}。
 (41) お互いの誤解が完全に {解ける} まで、とことん話し合う。
 (42) 国民の怒りが {解ける} までは、しばらく時間がかかりそうだ。
 (43) 昨日の面接ですが、途中から緊張も {解けて}、うまくできたと思います。

別義 (1) は、「結んであるものや、もつれているもの (つまり、具体物) がゆるんで、もとの離れた状態になる」ということを表すが、この「とける」は「怒りや緊張、不安など (つまり、抽象物) がやわらぎ、もとの平穏な状態になる」ということを表す。ただし、いずれも「(複雑に) 絡まっているある対象物がもとの状態になる」という点では共通している。このことから、別義 (2) は、別義 (1) から隠喩 (メタファー) によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.2.3. 多義的別義 (3) : 〈不明・未知のことに対して〉〈答が出る〉(「とく」別義 (4) に対応)

- (44) 魔女の呪いが {解ける} まで、お姫様はこの森から出られません。
 (45) ふとしたことがきっかけで連続殺人事件の謎が {解けた}。
 (46) この 2 語の意味の違いが分かった時は、まるでパズルが {解けた} ような快感を覚えた。

(47) 科学の進展に伴い、様々な暗号が簡単に【解ける】ようになった。

別義(1)は、「結んであるものや、もつれているもの（つまり、具体物）がゆるんで、もとの離れた状態になる」ということを表すが、この「とける」は「ある対象物（抽象物）が抱えている問題や謎、魔法などについて、（本来の姿とも言うべき）答え・真相が明らかになる」ということを表す。ただし、いずれも「（複雑に）絡まっているある対象物がもとの状態になる」という点では共通している。つまり、別義(3)は、別義(1)から隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.2.4. 多義的別義(4)：〈制約・制限されているものが〉〈取りのぞかれ〉〈もとの通常の状態になる〉（「とく」別義(6)に対応）

(48) 3月31日付けで、山田教授の謹慎が【解けた】。

(49) 公式戦5試合の出場停止が【解け】、次の試合からスタメンに復帰する。

(50) 農産物の輸入制限が【解け】、国内の野菜の値段が一気に下がった。

(51) 3年間続いた原発地域への立ち入り禁止が【解け】、住民たちはやっと家に帰ることができた。

「とける」は、別義(1)のように本来「紐や糸などの結んであるものや、もつれているもの、つまり具体物」に対して、「それがゆるんで、もとの離れた状態になる」ということを表すが、別義(4)は「ある事柄（抽象物）」に対して、「制約や制限が緩和し取り除かれ、もとの通常の状態になる」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物の制限がゆるんで（緩和して）、もとの状態になる」という点では共通している（抽象的な類似性）。このことから、別義(4)は、別義(1)から隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.2.5. 多義的別義(5)：〈人【組織】が〉〈ある任務・職務から〉〈離れる〉（「とく」別義(7)に対応）

(52) 顧問の任が【解けたら】、故郷に帰って、ゆっくり余生を送りたい。

(53) 来年3月で、息子の2年間の兵役が【解ける】。

(54) 常任理事の職務が【解ける】までは、なかなか身動きがとれません。

(55) 息子は自衛隊員で現在海外派遣中ですが、いつ任務が【解けて】日本に帰国できるかわかりません。

別義(4)は、「ある人(組織)に対してかけられていた制約や制限が取り除かれ、もとの通常の状態になる」ということを表しているが、この「とける」は「ある人(組織)が任務・職務から離れる」ということを表している。ただし、いずれも「(ある人を取り巻く)何らかの状況が取り除かれ、もとの状態になる」という点では共通している。つまり、別義(5)は、別義(4)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

さらに、この「とける」は、「単に何らかの状況が取り除かれ、もとの状態になる」ということだけではなく、「(ある人を取り巻く状況が取り除かれることによって)当該の人が(役職などから)辞めさせられるということまで表しており、別義(4)と原因と結果の関係にもあると考えられる。このことから、別義(5)は別義(4)から換喩(メトニミー)によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.2.6. 多義的別義(6):〈(主に)固形・粉末状の物質が〉〈液体の中にまじって〉〈均質な液状になる〉(「とく」別義(8)に対応)

- (56) 熱いお湯を注いだら、砂糖がすぐに {溶けた}。
- (57) 小麦粉が完全に {溶ける} まで、よくかき混ぜてください。
- (58) この洗濯石鹸は古いせいか、なかなか {溶けない}。
- (59) 油は水に {溶けない}。
- (60) 湿度とは、空気中に {溶けて} いる水蒸気の割合のことである。

「とける」は、別義(1)のように本来「紐や糸などの結んであるものや、もつれているもの」に対して、それがゆるんで、もとの離れた状態になる」ということを表すが、別義(6)は「固形・粉末状の物質」に対して、「液体が加わって、(物質の組織が分解されることによって)均質な液状になる」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物の結集された状態がゆるんで、(本来の姿とも言うべき)もとの離れた状態になる」という点では共通している。つまり、別義(6)は、別義(1)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、漢字表記であるが、別義(6)で用いられる場合は、一般的に「溶」を使う。

2.2.7. 多義的別義(7):〈固形状のものが〉〈熱によって〉〈液状になる〉

- (61) このバターは、手の温度でも {溶ける} ぐらい柔らかい。
- (62) 昨日は道路のアスファルトが {溶ける} ほどの暑さだった。
- (63) 車の中に置き忘れたチョコレートが {溶けて} べとべとになっちゃった。
- (64) 昨夜降った雪は、日が昇るとあっという間に {溶けて} しまった。

(65) このレンガは表面に特殊加工が施されているため、高熱でもなかなか {溶けない}。

別義(6)は、「固形・粉末状の物質」に対して、「液体が加わって、(物質の組織が分解されることによって)均質な液状になる」ということを表すが、別義(7)は「固形状のもの」に対して、「熱が加わって、(物質の組織が分解されることによって)液状になる」ということを表す。ただし、いずれも「ある物質に何らかの(化学的な)力が働き、液状になる」という点では共通している。つまり、別義(7)は、別義(6)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、次の例から分かるように、この別義(7)に対応する「他動詞」は、現代日本語においては一般的に「溶(熔・鎔)かす」が用いられる。

- (66) a ○鉄 [金・雪・チョコレート] が {溶ける}。
 b ?鉄 [金・雪・チョコレート] を {溶く}。
 c ○鉄 [金・雪・チョコレート] を {溶かす}。

なお、漢字表記であるが、対象語が「金属類」の場合は、「熔・鎔」を用いることが多い(例：鉄が熔(鎔)ける)。

以上、本節では「とける」について、7つの多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「とける」は以下のような多義構造を成していると考えられる。

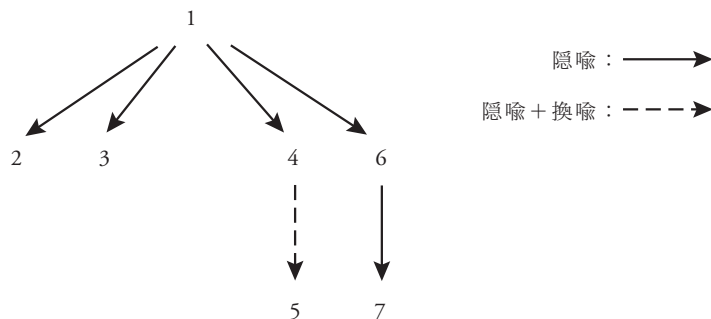


図2 「とける」の多義構造

3. 日本語教育の観点からの考察——コロケーションの提示と誤用例分析——

本節では、以上の「とく」と「とける」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因につ

いて検討する。

3.1. 「とく」

3.1.1. 多義的別義 (1)

「コロケーション」

〈もの〉をとく：縄、梱包、帯、結び目、包み、(絡まった)糸、巻物、網、包帯、釣り糸

〈手段・方法・道具〉でとく：ひとり、ブラシ、自力、片手、全員

〈人〉ととく：友達、彼女、仲間、娘、生徒

〈様態〉とく：簡単に、丁寧に、容易に、スピーディーに、丹念に、慎重に、きれいに

「誤用例」

(67) a ×散らかったイス [紙] を {解く}。

b ○散らかったイス [紙] を {片付ける [整理する]}。

→基本的に、結んだり、縛ったりすることができるひも状のものに使われる。

3.1.2. 多義的別義 (2)

「コロケーション」

〈服装〉をとく：旅装、装備、武装、変装、防空服装、男装

〈場所〉でとく：施設の中、部屋、船の中、納屋、ホテル、宿、客室

〈様態〉とく：急いで、とりあえず、さっそく、直ちに、すぐさま

「誤用例」

(68) a ×ズボン [上着・スーツ] を {解く}。

b ○ズボン [上着・スーツ] を {脱ぐ}。

→ (特別な目的で) 身につけていたものを取りはずして平常の服装にすることということを表す。従って、普段着など単に衣装を脱ぐ場合には使いにくい。

3.1.3. 多義的別義 (3)

「コロケーション」

〈心情〉をとく：緊張、誤解、怒り、警戒心、(心の) 迷い、不信、不安、憎しみ

〈手段・方法〉でとく：自力、いろいろな方法、自分、マッサージ器、スポーツ、ランニングマシン

〈場所〉でとく：家、現場、休憩室、リラックスルーム、温泉、プール

〈様態〉とく：ゆっくり、とにかく、何とか、なかなか (~ない)、しっかり、きちんと

「誤用例」

(69) a ×勇気 [期待] を {解く}。

b ○勇氣 [期待] を {捨てる}。

c ○不安 [怒り] を {解く}。

→基本的に、負の心情に対して用いられる。

3.1.4. 多義的別義 (4)

「コロケーション」

〈こと〉をとく：問題、方程式、疑問、謎、呪い、暗号、難問、課題、秘密、魔法、矛盾

〈手段・方法〉でとく：自力、みんな、自分、ユニークな発想、様々な方法、数式、変わった理論

〈人・組織〉をとく：友人、仲間、政府、研究機関、FBI、警察

〈様態〉とく：ひたすら、とにかく、すらすら、簡単に、あっさり、確実に、難なく

「誤用例」

(70) a ?料理法 [大工技術] を {解く}。

b ○料理法 [大工技術] を {学ぶ}。

→単に知識などを得る場合は使いにくい。

3.1.5. 多義的別義 (5)

「コロケーション」

〈相手〉にとく：人々、国民、民衆、相手、生徒、社員、教え子、子供たち

〈こと〉をとく：教え、真理、思想、道理、精神、意味、理想、原理、仕組み、善悪

〈手段・方法〉でとく：言葉、仏法、表現、自分、いろいろな方法、客観的な立場、経典、日本語

〈視点・観点〉からとく：立場、理論、見地、様々な角度、両面、事例、側面

〈様態〉とく：親切に、丁寧に、簡潔に、熱心に、明確に、ひたすら、はっきり、ちゃんと

「誤用例」

(71) a ?これは、部活の内容について {説いた} 資料です。

b ○これは、部活の内容について {説明した [紹介した]} 資料です。

c ○これは、人間の生き方について {説いた} 本です。

→公共性・公益性の低い、個別的・日常的な事柄についてはあまり用いられない。

3.1.6. 多義的別義 (6)

「コロケーション」

〈人・組織〉がとく：大統領、首相、学長、社長、自治体、政府、国連

〈こと〉をとく：警戒、拘束、鎖国、体制、命令、封鎖、謹慎、措置、閉鎖、禁止、規制

〈人・組織〉に（に対して）とく：受刑者、社員、国民、地域住民、民間企業、業者、研究機関

〈時期〉とく：前日に、来年から、3年後に、5年前に、来月から

〈様態〉とく：完全に、確実に、ついに、ようやく、さっさと、迅速に、一斉に

「誤用例」

(72) a ?友達と映画を見る約束を {解いて} 帰ってしまった。

b ○友達と映画を見る約束を {やぶって} 帰ってしまった。

→基本的に、制約・制限の意味を持つ語に限られる。

3.1.7. 多義的別義 (7)

「コロケーション」

〈人・組織〉がとく：長官、会長、本部長、総長、自治体、政府、法務省

〈任務・職務〉をとく：職、任、役職、任務、委嘱、兼務、現任、職務

〈人・役職〉の（任務・職務）をとく：山田氏、責任管理者、本部長、役員、会長、議長、観光大使

〈時期〉：3日前に、昨年の秋に、今月付けで、今年で、今月をもって、3年後に

〈様態〉とく：ついに、とうとう、任期を待たず、途中で、すでに、いきなり、急遽

「誤用例」

(73) a ×父 [叔父・師匠・先輩] の役を {解く}。

b ○父 [叔父・師匠・先輩] と {決別する}。

→家族・親族関係、師弟関係など、元々決まっている間柄の場合には使えない。

3.1.8. 多義的別義 (8)

「コロケーション」

〈物質〉をとく：粉、小麦粉、絵の具、ワサビ、砂糖、石灰、卵、蜂蜜

〈手段・方法・道具〉でとく：水、お湯、牛乳、酒、油、だし汁、溶剤、筆

〈液体〉にとく：水、お湯、醤油、アルコール、牛乳

〈場所〉でとく：台所、暗室、実験室、密閉空間、水槽、屋外、部屋の中

〈様態〉とく：一気に、しっかり、さっと、ちゃんと、素早く、徐々に、あっという間に

「誤用例」

(74) a ?鉄 [金・雪・チョコレート] を {溶く}。

b ○鉄 [金・雪・チョコレート] を {溶かす}。

c ○鉄 [金・雪・チョコレート] が {溶ける}。

→「固形物に熱を加えて、液状にする」という意味では、現代日本語においてはあまり用い

られない。代わりに、「溶（熔・鎔）かす」という他動詞を用いるのが一般的である。なお、これに対応する自動詞は「溶ける」となる。

3.2. 「とける」

3.2.1. 多義的別義 (1)

「コロケーション」

〈もの〉がとける：紐、糸、縄、包帯、帯、結び目、リボン、ロープ

〈様態〉とける：突然、すぐ、あっさり、完全に、簡単に、なかなか（～ない）

「誤用例」

(75) a ×散らかったイス [紙] が {解ける}。

b ○散らかったイス [紙] が {片付く}。

→基本的に、結んだり、縛ったりすることができるひも状のものに使われる。

3.2.2. 多義的別義 (2)

「コロケーション」

〈心情〉がとける：誤解、緊張、疑問、怒り、気持ち、不信、悩み

〈手段・方法〉でとける：様々な方法、ランニングマシン、ヨガ、呼吸法

〈様態〉とける：一瞬で、数分で、完全に、すっかり、次第に、絶対

「誤用例」

(76) a ×勇気 [期待] が {解ける}。

b ○勇気 [期待] が {消える}。

c ○不安 [怒り] が {解ける [消える]}。

→基本的に、負の心情に対して用いられる。

3.2.3. 多義的別義 (3)

「コロケーション」

〈こと〉がとける：問題、謎、魔法、呪縛、難問、暗号、秘密、呪文

〈手段・方法〉でとける：自分、理屈、方法、暗記、テクニック、数式、考え方、論理、コンピューター、原理、手法、プログラム

〈様態〉とける：すぐ、すらすら、絶対に、ちゃんと、簡単に、完全に、完璧に、あっという間に、瞬時に、正確に

「誤用例」

(77) a ? ボールの蹴り方が {解けた}。

b ○ボールの蹴り方が {分かった}。

→単に知識などを得る場合は使いにくい。

3.2.4. 多義的別義 (4)

「コロケーション」

〈こと〉がとける：禁止令、鎖国、禁止、謹慎、閉鎖、営業停止、凍結、規制、制限、制約

〈人・組織〉に対して (対する)：犯罪者、外国人、市民、日本語学校、企業、教育機関

〈時期〉：2年前に、夏に、年内に、春先までに、5年後に

〈様態〉とける：すぐ、ついに、とうとう、完全に、無事、予定通り

「誤用例」

(78) a ×推薦による大学への入学が {解けた}。

b ○推薦による大学への入学が {認められた}。

→基本的に、制約・制限の意味を持つ語に限られる。

3.2.5. 多義的別義 (5)

「コロケーション」

〈任務・職務〉がとける：任、職、任務、役職、職務、委嘱

〈人・役職〉の (任務・職務)：監督者、北方警備、会長、委員、役員、顧問、海外駐在

〈時期〉：昨年の夏に、2ヶ月前に、今月付けて、来月をもって、60歳で

〈様態〉とける：突然、前触れなしに、やっと、ようやく、予定通り、そろそろ

「誤用例」

(79) a ×父 [叔父・師匠・先輩] の役が {解ける}。

b ○父 [叔父・師匠・先輩] と {決別する}。

→家族・親族関係、師弟関係など、元々決まっている間柄の場合には使えない。

3.2.6. 多義的別義 (6)

「コロケーション」

〈物質〉がとける：砂糖、薬、塩、肥料、粉末、石鹼、カルシウム、洗剤、油、アルコール

〈手段・方法・道具〉でとける：胃酸、雨、水、唾液、溶剤、アルカリ、洗剤、ぬるま湯

〈液体・気体〉にとける：水、油、海水、血液、溶剤、酸、液体、唾液、空気、水素

〈場所〉でとける：体内、腸、密閉空間、口の中、地下、室内

〈様態〉とける：一週間で、一日で、完全に、自然に、きれいに、急速に、ゆっくり、すぐ、
なかなか (~ない)、次第に

「誤用例」

(80) a ?机が水に {溶けた}。

b ○石鹼が水に {溶けた}。

→基本的に、物質の組織が（液体によって）分解されるものに限られる。

3.2.7. 多義的別義 (7)

「コロケーション」

〈物質〉がとける：金属、アイス、チョコレート、蝋、凍土、氷、バター、プラスチック

〈手段・方法〉でとける：放電、様々な方法、条件下、電磁波、高圧

〈熱〉でとける：体温、温度、常温、低温、高熱、強火、光、エネルギー、太陽熱、炎

〈場所〉でとける：温室、体内、炉、溶鉱炉、冷蔵庫、大気圏、空中

〈状態〉とける：ゆっくり、完全に、自然に、容易に、すっかり、ほとんど、一気に

「誤用例」

(81) a ?山が {溶けた}。

b ○山が {焼けた}。

→基本的に、物質の組織が（熱によって分解され）どろどろの液状のものになる場合に限られる。

4. まとめ

以上、本稿では動詞「とく」と「とける」が持つ複数の意味を記述し、それら複数の意味の関連性（多義構造）について考察した。その結果、「とく」については8つ、「とける」については7つの多義的別義を認定することができた。

また、この2語は自・他対応動詞であるが、〈図3〉のように別義間にも基本的に対応関係

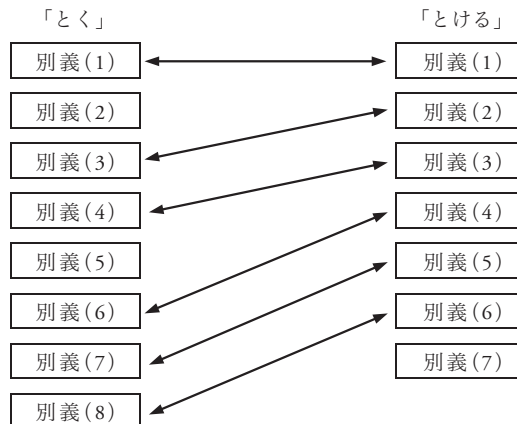


図3 「自・他対応関係」

にあることが分かった。なお、「とく」は「とける」の別義(7)に対応する意味用法を持たない。それに対して、「とける」は「とく」の別義(2)と(5)に対応する意味用法を持たない。

さらに、別義間の関連性については、隠喩(メタファー)、換喩(メトニミー)という2つの比喩の観点から考察を行い、別義間の関連性を明らかにすることができた。

最後に、多義語分析の結果に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討した。

附記：本稿は『国立国語研究所基本動詞用法ハンドブック (<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp>)』において、筆者が担当した「とく」「とける」に修正・加筆したものである。

注

- 1) 「とく・とける」には、「溶」「解」「説」「鎔」「熔」「融」という6種類の漢字表記があるが、「とく・とける」の意味の違い(多義的別義)に厳密に対応しているとは言えない場合がある。これについて、朧山(1994)では、同一の音形に複数の漢字表記が対応する場合について「1つの音に複数の漢字表記があり、漢字表記の違いが意味の違いに関与しない現象」を認めている。本稿においても、漢字表記の相違にのみ依拠する区分は行わず、あくまでも意味の相違にのみ注目するという立場で、以下の分析を行う。
- 2) 国広(1982: 97)は、多義語について『多義語 (polysemic word)』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と定義している。本稿においてもこの定義に従う。
- 3) 朧山(2001: 33)は「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」とし、「メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩が、複数の意味の関連づけに重要な役割を果たすと考えている」と述べている。
- 4) 「隣接性」「関連性」については、様々なケースが考えられるが、ここでは2点を例として示す。

参考(引用)文献

- 北原保雄(2011)『明鏡国語辞典』第3版, 大修館書店。
 国広哲弥(1982)『意味論の方法』, 大修館書店。
 国広哲弥(1996)「日本語の再帰中間態」『言語学林1995-1996』, pp. 417-423, 三省堂。
 新村 出(編)(2008)『広辞苑』第6版, 岩波書店。
 松村 明(編)(2006)『大辞林』第3版, 三省堂。
 朧山洋介(1994)「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』2, pp. 65-90, 名古屋大学留学生センター。
 朧山洋介(2001)「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』1, pp. 29-58, ひつじ書房。
 朧山洋介・深田 智(2003)「第3章 意味の拡張」松本 曜編『認知意味論』, pp. 73-134, 大修館書店。
 朧山洋介(2010)『認知言語学入門』, 研究社。

森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』, 角川書店.

森山 新(編著) (2012) 『日本語多義語学習辞典 動詞編』, アルク.

山田忠雄・柴田 武他(編) (2012) 『新明解国語辞典』 第6版, 三省堂.

例文出典

※本稿における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

(1) NINJAL-LWP for TWC (<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>)

(2) KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

キーワード：多義語、多義構造、比喩表現、コロケーション

Abstract

The Polysemic Structure of *toku* and *tokeru*:
From the Viewpoint of Japanese Language Education

LEE Tackung

This text described the multiple meanings of the verbs *toku* and *tokeru* in addition to discussing the relation between these multiple meanings (the polysemic structure). Resultantly, it was acknowledged that there were eight equivocal different meanings acknowledged for *toku* and seven for *tokeru*.

Furthermore, since these two verbs are a corresponding transitive/intransitive verb pair, the corresponding relationship between the different meanings of the verbs was also examined. The results of this examination clarified that the different meanings basically have a corresponding relationship.

Moreover, the relation between the different meanings was considered by looking at the two types of symbolic language, metaphor and metonymy, and it was thus possible to clarify the relation among the different meanings.

Finally, based on the results of a polysemy analysis, the research considered a method for effectively teaching people to learn all these different meanings. Specifically, a collocation for each different meaning was presented to promote learning, after which the examples of misuse that could be expected for each separate meaning were also presented and the causes and reasons for the misuse examined.

Keywords: polysemic word, polysemic structure, metaphorical expression, collocation